

第52回

小さな集落に

根をおろしたアート

先日、東京からのゲストをお連れして岩見沢の美流渡地区へ行った。MAYA・MAXXさんのアトリエを見学するためだ。車で向かうと美流渡に入る手前で大きな赤いクマの絵が出現する。北海道グリーンランドの観覧車を背景に食品加工会社モリタンの工場の壁にMAYAさんが描かれたものだ。そして美流渡に入るときさまざまな場所で、MAYAさんの描いたものを見ることができる。

MAYAさんは今年1月にこの世を旅立った。この地域に移住してきたのが2020年、それから2025年1月にお亡くなりになるまでの間、数年だったにも関わらず、地域にとても愛されていたことがよくわかる。またMAYAさんもこの地域をとても大切に愛していたことが伝わってくる。

炭鉱住宅の空き家を改造したアトリエはそのまま現存され、予約制（有料）で見学ができる。制作された数々の作品も保管されている。ちなみに絵などの制作物の保管は大変な労力と維持費がかかる。見学料やグッズなどの売り上げはほぼこの維持費になるそうだ。管理を引き受けている來嶋路子さんは1,000人を目標に誰でも協力できるサポートーズクラブを立ち上げた。維持管理は永続的だ。「いまはまだ少ないけれど1,000人いれば維持できると考えている」と言う。早く目標に達するように願わずにはいられない。

MAYAさんの菩提寺は、MAYAさんの鳥の塔（Aiちゃん）がグラウンドに建つ旧美流渡中学校に向かいの安國寺だ。MAYAさんが決めたという。美流渡が終の住処になり安住の場所だったに違いない。一人のアーティストが地域に波及させたアートの大きな波は、今もこれからも地域の中で生き続けるのだろう。帰りにリンゴの産地毛陽の直売所で美味しいリンゴと梨を買い列車に乗り込んだ。



すずき もも

イラストレーター・絵本作家／元スローフードさっぽろ事務局長

東京生まれ、北海道夕張育ち。広告や雑誌、カレンダーなどのイラストを描くほか、イラストで綴る町案内の本や絵本などを執筆。ほか、「スローフードさっぽろ」を2016年に立ち上げ、食を中心に環境や暮らしの大変に取り組んでいる。著書に絵本「はるとなつ はたけのごちそうなーんだ?」(アリス館)「おいしい大地、北海道」(イースト・プレス)がある。近著に絵本「はたけのごちそうなーんだ?くだもの」(アリス館)がある。モットーは4つのS。「Simple, Slow, Small, Smile: ささやかに、ゆっくり、ほどほどに、にこにこと」。